

京都精華大学 完成報告書

デザイン学部

1. 学部の教育目標

デザインは、時代や社会の動向を踏まえ、その要請に応えながら機能や性能を最大限に引き出すことはもちろん、それと共に人々の生活と精神を豊かにし、美を探究するものである。また、激しく変化する社会構造やライフスタイルの中で、環境への配慮、高齢化やグローバル化への対応など、社会の抱える様々な問題の解決もデザインという領域が担わなければならない時代が到来している。

このような社会の動向と要請を確実に把握し、その課題内容を分析し、対応する解決策を模索する実践的教育をめざして、デザイン学部は、ビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科、建築学科の3学科をもって、2006年度に開設された。

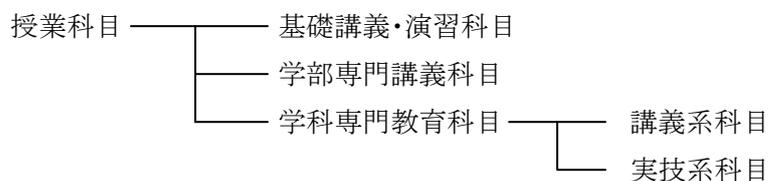
デザイン学部では的確な表現力や提案力に加えて、人間と社会への深い理解と豊かな創造力を養うことは、これからのデザイン領域を担う者にとって必要不可欠な要素であると考え。これらを総合的に教育するために、専門的スキルや実践的プログラムを通じ、真に人間性のあるデザイナーを育成するため、以下の教育目標を設定する。

- ① 実務経験豊かな教員による、実践性に富んだ科目やプログラムを提供する。
- ② 作品制作のプロセスにおける対話を重視し、企画力、構想力、プレゼンテーション能力の育成を心がける。
- ③ 国際性を培うための教育環境を充実させる。

2. カリキュラムのバランスと教養教育

デザイン学部の教育目標は上記「1. 学部の教育目標」で記した通りであるが、こうした目標を4年間で体系的に展開していくために、以下のようなカリキュラムを編成している。

(デザイン学部科目構成)



「基礎講義・演習科目」には、哲学、文学、社会学、自然科学、スポーツ実習など、デザインを学ぶ学生に対し、人間や社会、自然に関する教養を広める科目を配置しており、また芸術学やマンガ文化など他領域の表現理論を学ぶ機会を設けている。さらに、商品や情報が国境を越えて流通する現代社会では、デザイナーも国際的な視野が求められる。デザイン学部ではこのような時代に対応するために、国際的に活躍できるデザイナーの育成を目指し、「デザイン専門英語」という科目を開設し、1～3にあたる3科目(6単位)を必修科目としている。

「デザイン専門英語」ではデザイン関連領域を学習の素材とし、そのことによってデザイナー志望である学生たちの関心を喚起するとともに、デザインに関連した語彙や表現などを修得し、国外においても提案できる能力を養うことを目指している。

情報教育に関わる科目については、Windows や Mac を使ったワード、エクセル、パワーポイント、フォトショップ、イラストレータの使用法や Web 作成の各科目を、「基礎講義・演習科目」の中に設置しており、社会で必要なPCの基礎的なスキルを習得できるようにしている。

「学部専門講義科目」には、デザイン史から著作権などを扱う法規関連、人間工学の領域まで、デザインするための知識を広範囲に学ぶことができる多様な科目を設けている。

「基礎講義・演習科目」「学部専門講義科目」は学部共通として開講しており、デザインは社会と密接に結びついた表現であるため、広く様々な理論に触れる機会を設けている。

デザイン学部は3学科6コースから構成されており、入学時からコースに配属される。その為、「学科専門教育科目」では各学科・コースで専門性を深めていくような講義や演習科目が配置されており、どの学科・コースも基本的には、1年次に基礎学習、2、3年次には専門学習、4年次には社会学習へと発展するようなカリキュラム構成である。

このように広い教養とジャンルを超えた様々な理論や技法を身につけながら、人間と社会への理解を育み、新しい美の世界を探求していき、最終的には4年間の集大成としての「卒業制作」へと収斂していくようにカリキュラムが組まれている。

デザイン学部では、単に技術訓練のみではなく、人間と社会のあり方をみずえて、新しいデザインを創造することができるバランスのよいカリキュラムを配置している。

3. 導入教育

2011 年度より1年次前期に「基礎講義・演習科目」において、大学での学びをより理解し、意欲的に大学生活を送るための基礎をつくる「表現ナビ」という必修科目を設けており、4年間大学生活で学習するために必要な基本的姿勢や技能の修得を目的とした導入教育を行っている。

また、専門分野において、高等学校での美術教育は、担当教員の多くがファインアート専攻の出身者であるため、入学者の殆どはデザイン教養を含めた教育を受けていない背景がある。デザインはファインアートとは全く異なった表現であり、入学後の1年次にデザイン的な思考を一から作り上げる必要がある。

デザイン学部では、各コース単位で専門に関する教育を行っているため、1年次の専門科目が自ずと導入教育にあたる。1年次には、各コースの専門分野における基礎能力を培いながら、学生個人が持つ感性を最大限に発揮できるようなカリキュラムを編成している。この1年次の導入教育は、いずれのコースも本格的なデザイン教育を受けたことがないという学生の状況に配慮した科目を配置しており、2年次以降の作品制作の基礎となる役割を果たしている。

4. 入学時、進級時などにおける履修指導と履修登録の単位数の上限

入学時および進級時には、学科および事務局によるガイダンスを実施している。新入生に対して行われる事務局の全体ガイダンスでは、学内規則をはじめ、授業科目群の構成や概要、履修登録指導および履修登録単位数の上限を中心に説明しており、その後の個別指導でもきめ細かな対応を行っている。また、各学科においては専門領域科目の説明を中心に行い、4年間の教育内容にあたるカリキュラムについて説明を行っている。

進級時には、事務局より全体ガイダンスによる履修登録指導と単位取得僅少者等に対しては個別指導を行っている。各学科においても専門領域における全体説明と個別指導を行っている。

デザイン学部では1 Semesterで履修登録可能な単位の上限は、卒業要件に含まれない教職免許科目等や集中授業科目を除き、22単位(1年で44単位)に設定している。

5. 授業評価とFD

本学では、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究の実施に関する事項を審議するために、「FD委員会」を定期的で開催している。また、デザイン学部では学部固有のFDに関する諸問題を協議するために、「FD委員会」のもとに「デザイン学部FD委員会」を設置しており、学部より委員を選定し随時開催している。

審議事項は以下の通りである。

[大学全体のFD活動]

- (1) 本学のFDに関する事項
- (2) 本学のFD活動や学部への公表に関すること
- (3) 他大学のFD活動や外部のFD関連セミナー等に関すること

[学部固有のFD活動]

- (1) 各学部固有のFDに関する諸問題

FD活動としては、学生による授業評価アンケートを各 Semester 終了時期に全学生対象に実施している。講義・演習系授業はマークシート方式、実技系授業は記述式のアンケートを実施しており、回収したアンケートは科目毎に集計して学部長を通じて担当教員へフィードバックしている。また、必要に応じてアンケート結果を学部FD委員会で検討し、授業内容の改善に努めている。なお、授業アンケート結果は本学のウェブサイトで公開している。

また、2011 年度より web 上で e ポートフォリオ・システムを導入し、学生が自分の作品をアーカイブ化して、学修履歴を残せるようにした。

6. 授業の方法および内容ならびに一年間の授業計画、成績評価基準の明示

授業内容および一年間の授業計画については、冊子「デザイン学部履修のてびき」、「講義概要シラバス」やWEBシラバスにおいて学生全員に明示している。また、「デザイン学部履修のてびき」には、各学科の設置主旨や、1年次から4年次までの各年次における教育課程および授業計画を明文化して掲載している。

各シラバスの掲載内容については、担当教員にシラバス作成を依頼する際、書面において各授業内容の1)授業概要および目的、2)到達目標、3)授業計画、4)評価方法・評価基準、5)履修条件・留意点および受講生に対する要望(予習・復習等)の記載を求めており、学生に対しては詳細な内容を明示している。

シラバス記載に精粗の差がある場合は、教学推進センター長名で記載内容の改善を求めており、記載不十分科目数は年々逓減している。また、2010年度より「到達目標」項目を新設し、教員に作成を依頼している。

以上